

## 2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】

作成：7年6月18日

施策番号 1-2-2	施 策 名 地域資源を活用した観光の振興		基本目標 農業を軸とした活力と賑わいのあるまちづくり
			政策名 農業と連携した活力ある商工業と観光物産の振興
	主 管 課 魅力創造課	課長名 我妻 修一	内 線 242
		施策関係課 生涯学習課	

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図			結果		
農業や景観、食など本町の地域資源を活かした観光による魅力づくりを行うため、本町のブランド力の戦略的な活用を図りながら、観光誘客の促進を目指します。			町外観光客			・観光客の滞在時間と日数を増大させ、観光消費の拡大を図る ・観光資源が認知され、新規観光客とリピーターを獲得する		
						茅室町が道内・国内・海外に発信される 交流人口の増で消費の拡大につながる		
成果指標	説明	単位	策定期(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標
① 芽室町外からの観光入込客数	十勝総合振興局まとめ	人/年	160,800 (R3)	118,400	189,100 <b>212,700</b>			169,000
② 新嵐山スカイパーク利用者数	魅力創造課調べ	人/年	273,520 (R3)	6,821	77,872			288,000.0
③								
④								
①②年約1%増加を目標とし、5年間につき5%増で設定								
成果指標 設定の考え方								

## 2. 施策の事業費

	策定期決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	184,003	366,898	473,805		

## 3. 施策の達成状況

(1)施策の達成度とその考察				
①2024年度の成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した	想定される理由	・2024年度シーズンから新嵐山スキー場が再オープンし、冬季の利用が再開されたことから、前年と比較して成果は向上している。	
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった			
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した			
②第5期総合計画後期実施計画(2026年度)の最終的な目標達成状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる	根拠 (理由)	・ふるさと納税の納税額のさらなる増加、日高山脈襟裳十勝国立公園を活用した取り組みによる観光客の増加は見込めるが、新嵐山スカイパークについては、令和7年度に策定する基本計画に基づく施設整備、オープンが令和9年度以降となる見込みであることから、後期実施計画中の目標達成は難しい。	
	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能			
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい			
(2)施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括				
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業		②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	・令和6年5月に「芽室町観光ビジョン」を策定、観光振興の方向性を整理し、観光フォーラム開催などを通じて地域一体の政策推進を図った。 ・ふるさと納税においては、令和6年度も引き続き返礼品、ポータルサイト、事業者の増加に注力し、目標としていた6億円を達成するとともに、事業者との信頼関係構築、連携を図るために、事業者会議を開催した。 ・令和6年6月25日に日高山脈襟裳十勝国立公園が指定され、関係市町村独自の取り組みが行われた。十勝・日高山脈観光振興協議会においては、モニターシアター、ガイド育成イベント等を実施した。 ・新嵐山スカイパークはメムロスキー場の再オープンとともに、再生に向けたグランドデザインの策定を行い、令和7年度の基本構想、基本計画の策定に向けて取り組んだ。			
(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定期との比較)				
担当課 評価	ふるさと納税においては令和6年度6億円と目標を達成、日高山脈襟裳十勝国立公園の指定による各種取り組みによるプラス要因はあるものの、町の観光拠点である新嵐山スカイパークの休業が、町の観光振興に与える影響は極めて大きく、利用者が大幅な減となるなど、計画策定期と比較して後退したと考える。			
	A:実現した	B:(後期実施計画策定期と比較して)大きく前進した	C:(後期実施計画策定期と比較して)前進した	
D:(後期実施計画策定期と比較して)変わらない又は維持した			E:(後期実施計画策定期と比較して)後退した	
			O	
進捗結果				

#### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナが明け、観光業の回復、国内・海外の観光客の動きの加速、復調が見られる。令和6年度に策定した「芽室町観光ビジョン」に基づき、芽室町観光物産協会と連携した取り組みを加速化させるとともに、日高山脈襟裳十勝国立公園、観光政策の取り組みが、町民にどのような恩恵があるのかロジックの明確化、整理が必要である。</li> <li>個人版のふるさと納税は順調な伸びとなっているが、企業版ふるさと納税の強化、クラウドファンディング型ふるさと納税の調査・研究が必要である。</li> <li>新嵐山スカイパークは再生に向けて、グランドデザインの策定(R6)、基本構想及び基本計画の策定(R7)を行うが、町財政への影響等をふまえ、整備する機能や規模を整理する必要がある。</li> <li>メムロスキー場は令和6年度及び令和7年度はプレオープンと位置付け、令和8年度の本格的な再オープンに向けて、リフトや圧雪車等の計画的な修繕を行うが、いずれも老朽化が進んでいることから、基本計画において、更新した場合との費用の比較など、町財政の負担軽減が可能な手法を検討する必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>日高山脈襟裳十勝国立公園の積極的なPR活用を望む声がある一方で、環境保全に対して懸念する意見もある。 →保全を前提とした、景観を活用した観光振興を進める。今後においては、日高側との連携、民間事業者との連携、地域住民への認知度向上を図る。</li> <li>新嵐山スカイパークは観光拠点であるとともに、町民の憩いの場であり、再生にあたっては、町民が利用しやすい施設、環境などが望まれている。</li> <li>グランドデザインでは、新嵐山スカイパークの再生を町民の皆さんとの福祉の増進につながるよう取り組むこととしており、今後の基本計画策定においても、これらの意見も取り入れながら、取り組む必要がある。</li> </ul>

#### 5. 施策の課題認識(現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>「芽室町観光ビジョン」に基づき、芽室町観光物産協会と連携したより一層の取り組み強化が必要である。また、日高山脈襟裳十勝国立公園の活用、連携した商品作成、イベント開催など、地域内外へのPR活動を推進する。</li> <li>ふるさと納税について、さらなる納税額の増へ向け、返礼品の在庫数確保や第二の核となる返礼品開発、寄付者分析や戦略検討、情報発信力などの課題があるが、未開拓のジャンルや事業者同士のマッチングなど、今後に向けて伸びしろ、可能性があり、事業者、中間事業者との密な情報共有、連携を図り進めていく。</li> <li>新嵐山スカイパークは観光の拠点であるとともに、町民の憩いの場としての活用の要望もあることから、再生に向けては、それらの要望や町財政への影響もふまえ、整備する機能、規模などを基本計画において検討する。また、グランドデザインにおいて定めた民間活用ゾーンについては、民間活力の活用について令和8年度以降に希望する事業者を公募する想定である。</li> <li>メムロスキー場は令和6年度、令和7年度はプレオープンと位置付け、令和8年度のオープンに向けて準備を進めるが、施設・機器の老朽化が進んでおり、計画的な修繕、更新について検討が必要である。</li> </ul>
---

#### 6. 経営戦略会議(府内評価)

評価	成果指標等から、後退したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A: 実現した  B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した  C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した  D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した  E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					

#### 7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	新嵐山スカイパークについては前年比では増加しているが、施設の老朽化、コースの減少などから後退したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果					○
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>より現場の人の気持ちや意思を聞くしっかりとしたコミュニケーションから始める事業運営をしていくべきだと思います。</li> <li>将来的に施設の改修が見込めないのであれば、スキー場をあきらめることも視野に入れるべきではないか。</li> <li>嵐山を使ってイベントをやりたいという声もあるので、見た目を整えてもらいたい。</li> </ul>	A: 実現した  B: (後期実施計画策定期と比較して) 大きく前進した  C: (後期実施計画策定期と比較して) 前進した  D: (後期実施計画策定期と比較して) 変わらない又は維持した  E: (後期実施計画策定期と比較して) 後退した					